

## 昨今の就職状況と就職課の取り組みについて

本学の受験者は幸いなことに増加傾向にあり、入試の倍率や偏差値も上がりつつあります。その理由は様々にあげることができると思いますが、文学部を中心にして教養を高めることを最重要視していた路線から、総合子ども学科への改組や、看護リハビリテーション学部の見られるような実学重視の路線に徐々に変わってきたことが大きいと考えられます。平成 21 年度には総合子ども学科が初めての卒業生を出し、多くの卒業生が幼稚園や保育所で働くこととなりましたが、平成 22 年度には看護学科と理学療法学科がそれぞれ初めての卒業生を出すこととなり、今後も本学で学んだ内容を直接社会で生かす卒業生の数は、ますます増えていくと思われます。他の学科でも、大学に対する世の中の期待に応えようと、教養重視路線から実学重視の路線が打ち出されるようになっていますが、多くの受験生や学生から支持を集めているように思えます。

しかし、サブプライムローン問題を機に世界経済が不安定化すると、大学新卒者の就職活動も厳しい局面に立たされることとなりました。医療機関からの求人や、団塊世代の大量退職を背景にした教育関係からの求人は、比較的楽観視できるものの、毎年、大量の求人を出していた金融機関や企業が採用人数を大きく絞っており、正社員として採用される道はきわめて厳しくなっています。

こうした情勢の中で、学生を社会に送り出す役目を持った就職課の責任は、いつの時代に比べても重くなっているように思います。これまでは個々の学生に対する面談や模擬面接、エントリーシートや履歴書の添削、就職先の斡旋等を主たる業務としていましたが、現在では相談に訪れる学生を待つのではなく、ゼミに出向いてキャリアについて考える機会を与えたり、正規の授業として1年次から「キャリアデザイン A~D」の科目を設置するほか、在学中に職場体験をするインターンシップ制度の導入/単位化、多くの企業を学内に招いての企業説明会の開催など、様々な方法を模索しています。

中でも本学就職課が新しい試みとして取り組んでいるものに、平成 21 年度に文部科学省による学生支援推進プログラムとして採択された「キャリアノートによる社会人基礎力・人間力涵養プロジェクト」があります。これは、大学に入学したばかりの段階から、学生たち自身が、どのようなことを考え、どのような夢を実現しようとしているかについてノートに書き出させ、それを元にして学生と就職課員、担当教員、そして保証人の方々とも連携しながらキャリア意識を形成していこうという試みです。また、大学ホームページに「就活組」というブログを設置し、学生や職員が情報交換をしながらモチベーションを高める仕掛けを作ったり、「就勝会」というサークルを組織させ、学生同士での勉強会や討論会を行わせる機会を作っていますが、逆風の吹きすさぶ中でも、これらの試みが着実な成果を出し始めています。さらに在学中に、社会で活躍中の卒業生や企業の人事担当者らと接し、ビジネスの常識を学び、働くことの意味について考えさせ、モチベーションを上げる「ビジネスウーマン塾」の企画も、現在考案中です。

このように近年の経済情勢やメディアの発達、学生の動向等に目を配りながら、就職課では様々な方法によって実績アップを考えていますが、あくまでサポート役であり、本人の自覚なしに未来を切り開くことは絶対にできません。一人ひとりと向き合いながら、また、保証人の方々との連携も深めながら、個々のキャリアデザインを考えていく体制を築いていくつもりです。今後とも変わらぬご理解とご支援をいただければと存じます。